2 法定 自主

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 7年 5月 12日

相模原市長 殿

提出者

住 所 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30

氏 名 株式会社オハラ 代表取締役社長執行役員 齋藤 弘和 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 042-772-2101

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する 計画を作成したので、提出します。

市	AN TE		₩	****			自主管理事業登録番号									
争	耒 垓	の名	仦	株式会社オハラ			(5035)									
事	業 場	の所在	地	TEL(連絡先): 042-772-2101 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30												
計	画	期	間		令和 7 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日(1 年間)											
当言	亥事業	場に関す	る	事項												
	1	事業の種	類	E21-窯業·土石製品	製造業 (具体的には)	ガラス・同	司製品製造業									
	2	事業の規	模	製造業	製造品出荷額		14,449 百万円									
				建設業	エリア内元請完成工事高		百万円									
		年度実績を 療機関は前		医療機関	病床数		床									
	度末時 記入。	特点の病床数	女を	その他の業種	売上高		百万円									
				(上記項目に該当しない均	易合にはこちらに記載をしてください。)	1										
	3	従業員数					47	74								
		産業廃棄 の一連の 理の工程	処	DII OT												
		業廃棄物の に記入	種	別紙1												

産ӭ	業廃棄物の処理に	係る管理体制に関する事項		
	(管理体制図)			
	別紙2			
産ӭ	上 業廃棄物の排出の	抑制に関する事項		
		【前年度(令和6年度)実績】		
		産業廃棄物の種類数	7 種類	* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。
		排出量	1,758.7 t	1み、八川川はマンこのファ。
		(これまでに実施した取組)		
	① 現状			
		 1.生産における歩留まり(製品取得率)の向上		
		2.節水対策による排水処理汚泥の削減 3.業務改善による無駄の排除		
		3.未分以百にの公本級の計画		
		【(令和7年度)目標】 産業廃棄物の種類数	7 種類	
		作業の ・ 排出量	/ 作里 類 1,723.4 t	* 種類ごとの本年度排出目 標量は、別紙のとおり。
		(今後実施する予定の取組)		
	⊚ - 1⊞			
	② 計画			
		 1.事業方針と統合させた活動実施		
		2.環境意識向上の活動実施		
産シ	 実廃棄物の分別に	 関する事項		
-	NO STATE OF THE ST	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組	()	
		 1. ゴミ分別を明確化した資料・手順を基に教育実施		
	① 現状	2. 定期的な分別状況の確認		
		3. より良い中間処分業者及び最終処分業者の選定 4. 行政、関係団体などからの情報収集		
		/^ // \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	L = T- AD	
		(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関す 	する取組)	
	② 計画			
	(金) 計画	3R活動の推進		

(第3面)

自	ら行	う産業廃棄物	の再生利用に関する事項	•		
			【前年度(令和 6 年度)実績】			
			②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃 棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら再 生利用量は、別紙のとおり。
			(これまでに実施した取組)			
	6	〕現状				
		<i>5</i> 5 1 1				
			【(令和7年度)目標】			
			②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄			* 種類ごとの本年度自ら再
			物の量		t	生利用量は、別紙のとおり。
			(今後実施する予定の取組)			
	2	2) 計画				
自	 ら行	rう産業廃棄物	 の中間処理に関する事項			
			【前年度(令和6年度)実績】			
			⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱 回収を行った量は、別紙のと おり。
			⑦ 自ら中間処理により減量した産業 廃棄物の量		484.3 t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、 別紙のとおり。
	(〕現状	(これまでに実施した取組)			
			【(令和7年度)目標】			
						* 種類ごとの本年度自ら熱
			⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	回収を行う量は、別紙のとおり。
			⑦ 自ら中間処理により減量する産業 廃棄物の量		474.6 t	* 種類ごとの本年度自ら中 間処理により減量する量は、 別紙のとおり。
	0	②計画	(今後実施する予定の取組)			
		3 / 前四				

自	う 行う産業廃棄物の	の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		,	
		【前年度(令和6年度)実績】			
		③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行った量は、別紙のとおり。
		(これまでに実施した取組)			
	① 現状				
		【(令和 7 年度)目標】			
		③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行う量は、別紙のとおり。
		(今後実施する予定の取組)		<u> </u>	
	② 計画				
産	ἔ廃棄物の処理 <i>σ</i>)委託に関する事項 「「***ケァ(ヘ和・ケケ) 中は			_
		【前年度(令和6年度)実績】			Т
		⑪ 全処理委託量	1,274.4	t	
		① 優良認定処理業者への処理委 託量	372.2	t	
		② 再生利用業者への処理委託量	1,263.2	t	* 種類ごとの前年度処 理委託量は、別紙のとお り。
	① 現状	① 認定熱回収業者への処理委託 量	0	t	
		(単) 認定熱回収業者以外の熱回収 を行う業者への処理委託量	0	t	
		(これまでに実施した取組)			
Į.					

(第5面)

_		(第5曲)		
		【(令和7年度)目標】		
		⑩ 全処理委託量	1,248.8 t	
		① 優良認定処理業者への処理委 託量	364.7 t	
		② 再生利用業者への処理委託量	1,248.8 t	* 種類ごとの本年度処 理委託量は、別紙のとお り。
	② 計画	③ 認定熱回収業者への処理委託 量	t	
		(4) 認定熱回収業者以外の熱回収 を行う業者への処理委託量	t	
		(今後実施する予定の取組)		
*	事務処理欄			

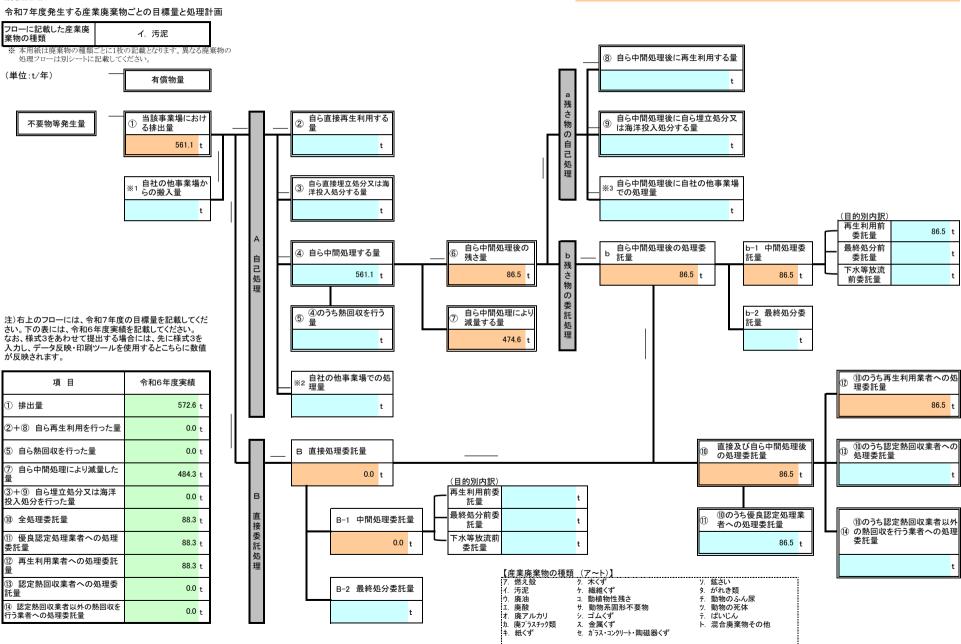
備考

1 この様式は、前年度(令和6年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

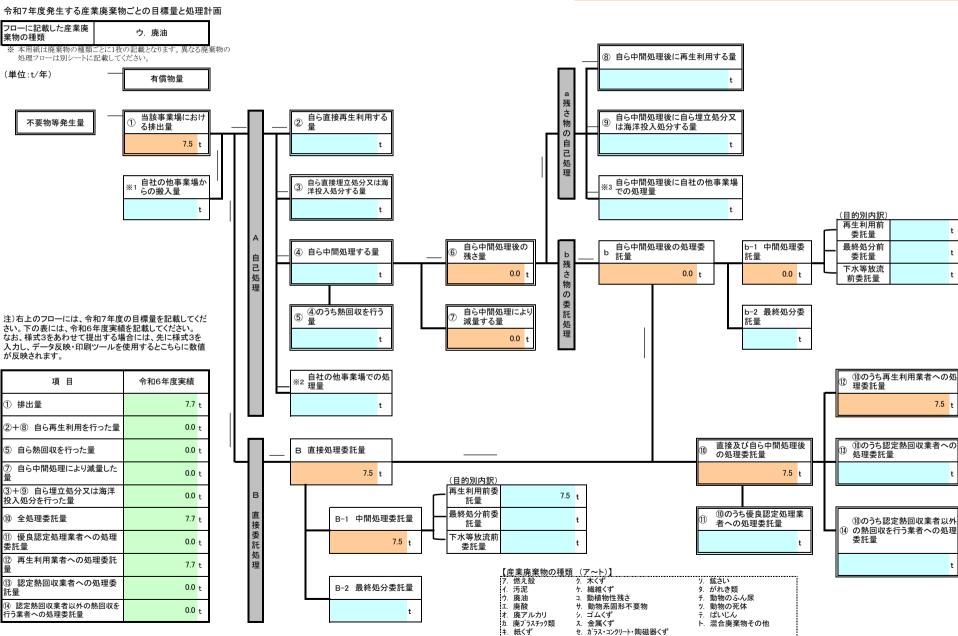
また、前年度(令和6年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあっては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

- 2 当該年度(令和7年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程 (当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を 行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、 目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入 すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

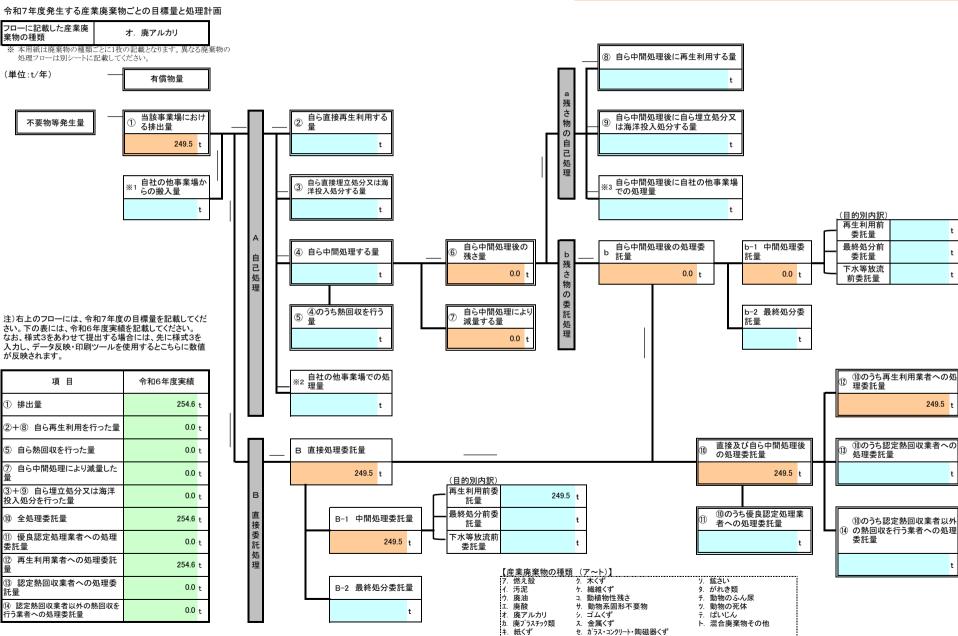
別紙処理フロー 事業場名称 : <mark>株式会社オハラ</mark>



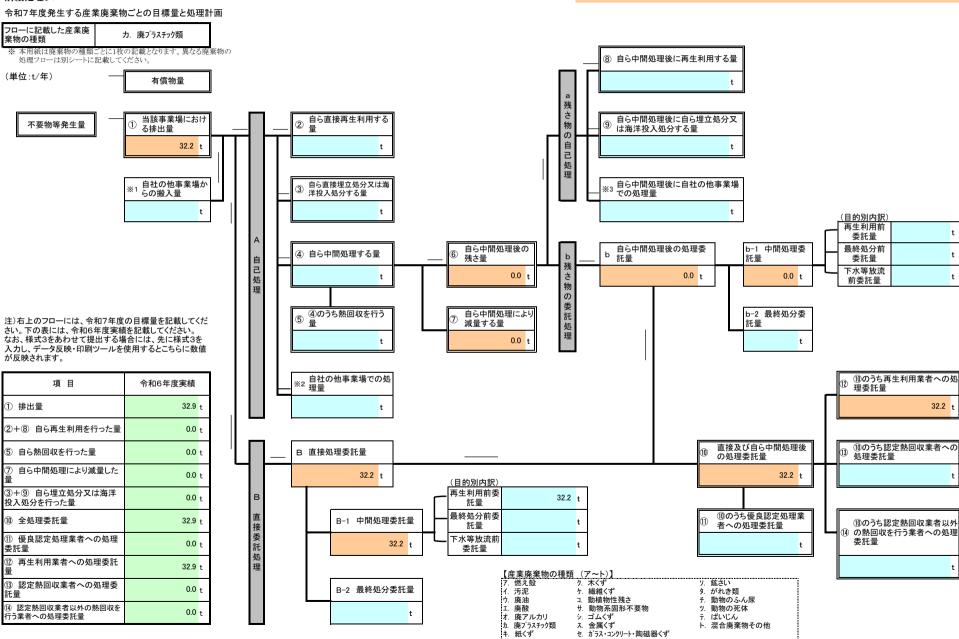
別紙処理フロー 事業場名称 : <mark>株式会社オハラ</mark>



別紙処理フロー 事業場名称 : <mark>株式会社オハラ</mark>



別紙処理フロー 事業場名称 : 株式会社オハラ



行う業者への処理委託量

0.0 t

自主 法定 2-2

0 事業場名称 : 株式会社オハラ 別紙処理フロー 令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した産業廃 「木くず」には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です ク. 木くず 「かくり」には米性目にサルめり、欧当米性以外では、放発米物となり、軟合対象がです。 【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び物。 棄物の種類 品賃貸業に係るもの、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの) ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の || 「食食米に体ものの、足改米(エトラのの初来、以来、MACによってエンともの)。 || 全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用したこん ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 処理フローは別シートに記載してください。 包用の木材を含む。) (単位:t/年) 有償物量 当該事業場におけ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又 自ら直接再生利用する 不要物等発生量 る排出量 は海洋投入処分する量 41.0 t 己 理 自社の他事業場か 自ら中間処理後に自社の他事業場 自ら直接埋立処分又は海 での処理量 らの搬入量 洋投入処分する量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理後の 自ら中間処理後の処理委 b-1 中間処理委 最終処分前 4) 自ら中間処理する量 残さ量 託量 託量 委託量 己 下水等放流 0.0 t さ 0.0 t 0.0 t 処理 t 前委託量 の 委託処理 ④のうち熱回収を行う 自ら中間処理により b-2 最終処分委 (5) 注)右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してくだ 減量する量 託量 さい。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を 0.0 t t 入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値 が反映されます。 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 ※2 ^日 理量 項目 令和6年度実績 理委託量 ① 排出量 41.8 41.0 t ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0.0 直接及び自ら中間処理後 ⑩のうち認定熱回収業者への ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.0 t B 直接処理委託量 の処理委託量 処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量した 0.0 t 41.0 t 41.0 t (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海洋 再生利用前委 0.0 t 41.0 t 投入処分を行った量 託量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 直接委託 ① 全処理委託量 B-1 中間処理委託量 41.8 t ⑩のうち認定熱回収業者以外 託量 者への処理委託量 (4) の熱回収を行う業者への処理 ① 優良認定処理業者への処理 下水等放流前 委託量 0.0 t 41.0 t 委託量 (12) 再生利用業者への処理委託 41.8 t 【産業廃棄物の種類 (ア〜ト)】 7. 燃え殻 ケ. 木くず 鉱さい ③ 認定熱回収業者への処理委 0.0 t B-2 最終処分委託量 イ. 汚泥 繊維くず タ. がれき類 ウ、廃油 動植物性残さ チ 動物のふん尿 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を 1. 廃酸 サ. 動物系固形不要物 ツ.動物の死体

オ、廃アルカリ

キ. 紙くず

カ. 廃プラスチック類

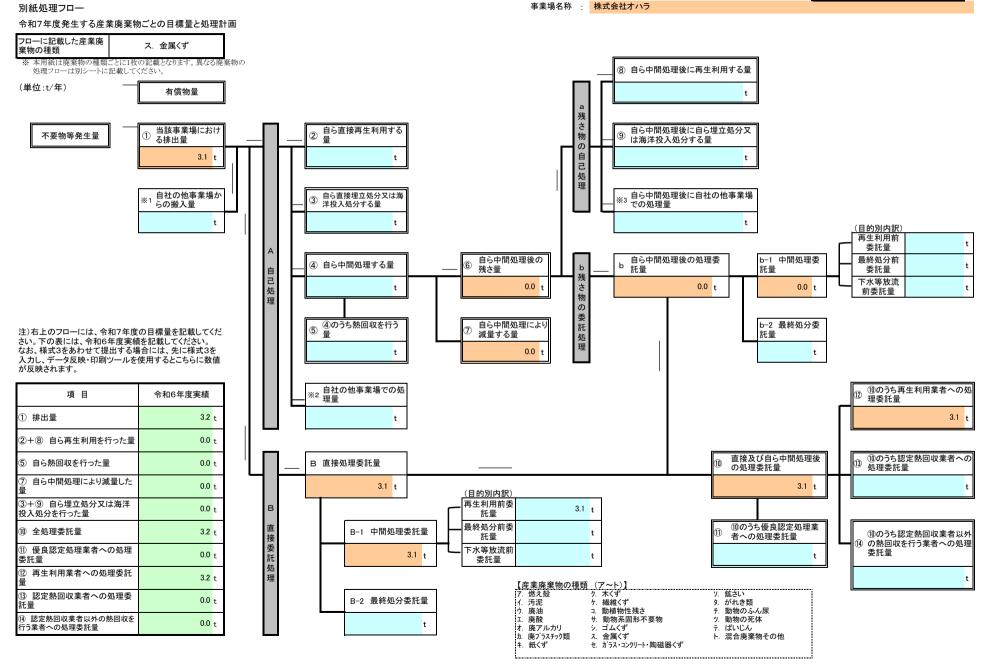
ゴムくず

セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

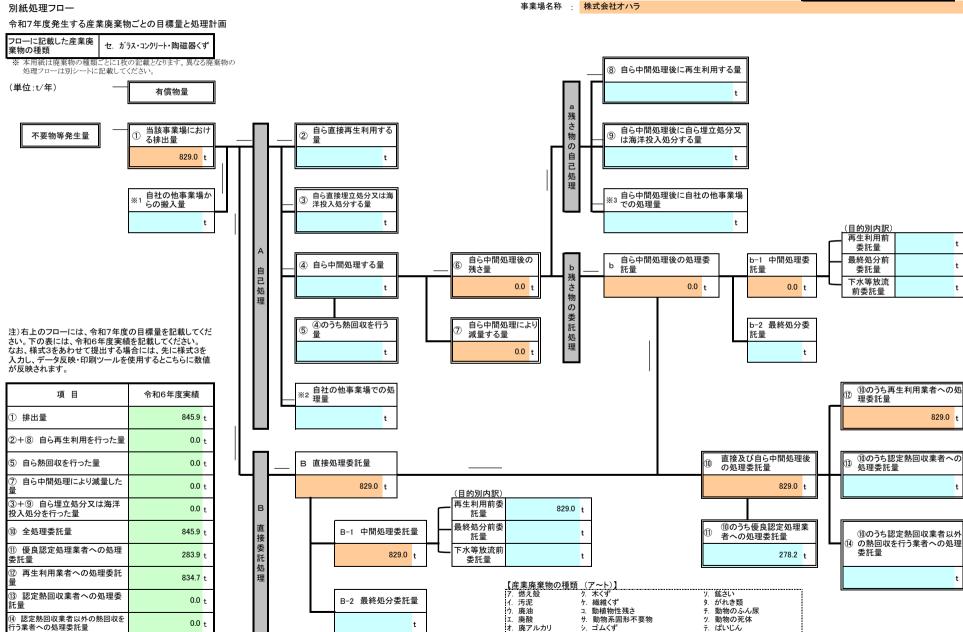
ス. 金属くず

f. ばいじん

ト. 混合廃棄物その他



自主 法定 2-2 0



カ. 廃プラスチック類

キ. 紙くず

ス. 金属くず

セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

ト. 混合廃棄物その他

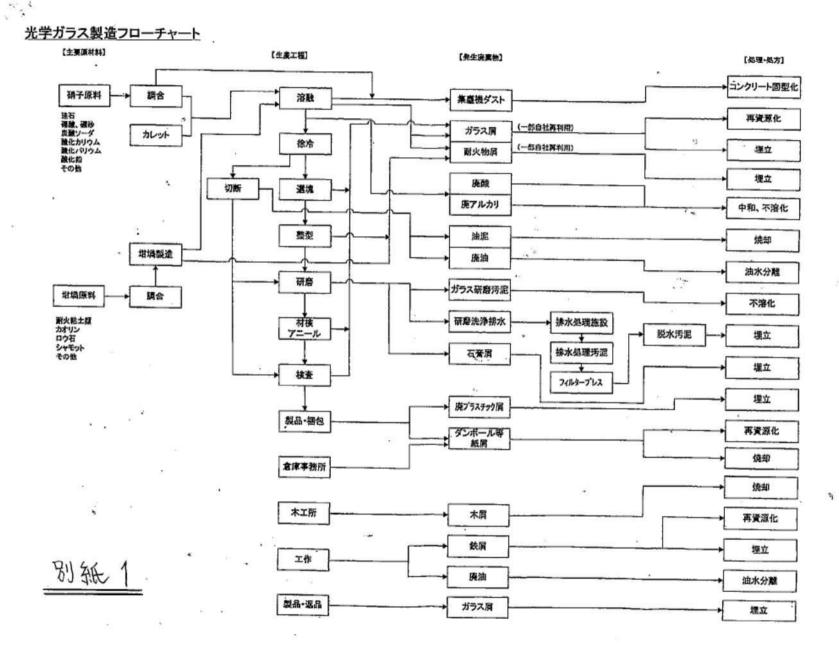
別紙一括表

2-1 法定 自主

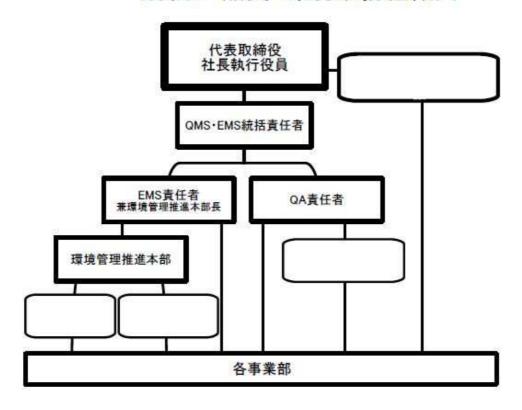
(単位:トン)

事業場名称:株式会社オハラ

ク __ ħ 動植物性 動物系 ガラス・コンクリー 動物の 動物の 混合廃棄物 燃え殻 繊維くず 金属くず がれき類 ばいじん 汚泥 廃油 廃酸 廃アルカリ 紙くず 木くず ゴムくず 鉱さい 合計 固形不要物 **ト・陶研器(す** ① 排出量 572.6 7.7 254.6 32.9 41.8 3.2 845.9 1.758.7 令 ②+8 自ら再生利用を行った量 0 0 0 0 0 0 和 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0 0 0 0 0 0 0 0 6 ⑦ 自ら中間処理により減量した量 0 0 484.3 0 0 0 484.3 0 年 ③+9 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量 0 0 0 0 0 0 0 度 ⑪ 全処理委託量 88.3 7.7 254.6 32.9 41.8 3.2 845.9 1.274.4 実 ① 優良認定処理業者への処理委託量 88.3 0 283.9 372.2 續 ② 再生利用業者への処理委託量 88.3 7.7 254.6 32.9 41.8 3.2 834.7 1,263.2 ③ 認定熱回収業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 0 0 0 0 0 ① 当該事業場における排出量 561.1 7.5 249.5 32.2 41.0 3.1 829.0 1,723.4 ※1 自社の他事業場からの搬入量 自ら直接再生利用する量 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 自ら中間処理する量 561.1 561.1 ⑤ ④のうち熱回収を行う量 ※2 自社の他事業場での処理量 自ら中間処理後の残さ量 86.5 86.5 474.6 自ら中間処理により減量する量 474.6 a ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 処 処理物 (※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 理 自ら中間処理後の処理委託量 86.5 86.5 b-1 中間処理委託量 86.5 86.5 再生利用前委託量 86.5 86.5 最終処分前委託量 B 下水等放流前委託量 b-2 最終処分委託量 直接処理委託量 7.5 249.5 32.2 41.0 3.1 829.0 1,162.3 7.5 249.5 32.2 41.0 3.1 829.0 1,162.3 B-1 中間処理委託量 再生利用前委託量 7.5 249.5 32.2 41.0 3.1 829.0 1,162.3 委 託 最終処分前委託量 処 下水等放流前委託量 B-2 最終処分委託量 ⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 86.5 7.5 249.5 32.2 41.0 3.1 829.0 1.248.8 ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 86.5 278.2 364.7 ① ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 86.5 7.5 249.5 32.2 41.0 3.1 829.0 1,248.8 (3) ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委



別紙2 品質•環境業務組織図



		, C 1/2 C 0 8
)	法定	自主
3	0	

様式第二号の九(第八条の四の六関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 7年 5月 12日

相模原市長 殿

提出者

住 所 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30

株式会社オハラ 氏名 株式会社オハラ

氏 石 代表取締役社長執行役員 齋藤 弘和

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 042-772-2101

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和6年度の産業廃棄物処理計画の実施 状況を報告します。

事 業 場 の 名 称 株式会社オハラ 自主管理事業登録番号 (5035)

______L TEL(連絡先): 042-772-2101

事業場の所在地 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30

当該事業場に関する事項

① 事業の種類	E21-窯業·土石製品製造	業 (具体的には)	ガラス・同製品製造業				
② 事業の規模	製造業	製造品出荷額	14,449	百万円/年			
	建設業	エリア内元請完成工事高	0	百万円/年			
※ 前年度実績を記 入、医療機関は前年	医療機関	病床数	0	床			
度末時点の病床数を 記入。	その他の業種	売上高	0	百万円/年			

(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)

0

③ 従業員数 474

産業廃棄物処理計画 における計画期間

令和6年4月1日~令和7年3月31日(1年間)

産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	1,935.7 t	全処理委託量	1,299.9 t
自ら再生利用を行う産業廃棄 物の量	0 t	優良認定処理業者への処理 委託量	337.8 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物 の量	0 t	再生利用業者への処理委託 量	1,183.6 t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量		認定熱回収業者への処理委 託量	0 t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		認定熱回収業者以外の熱回 収を行う業者への処理委託量	0 t

※ 事務処理欄

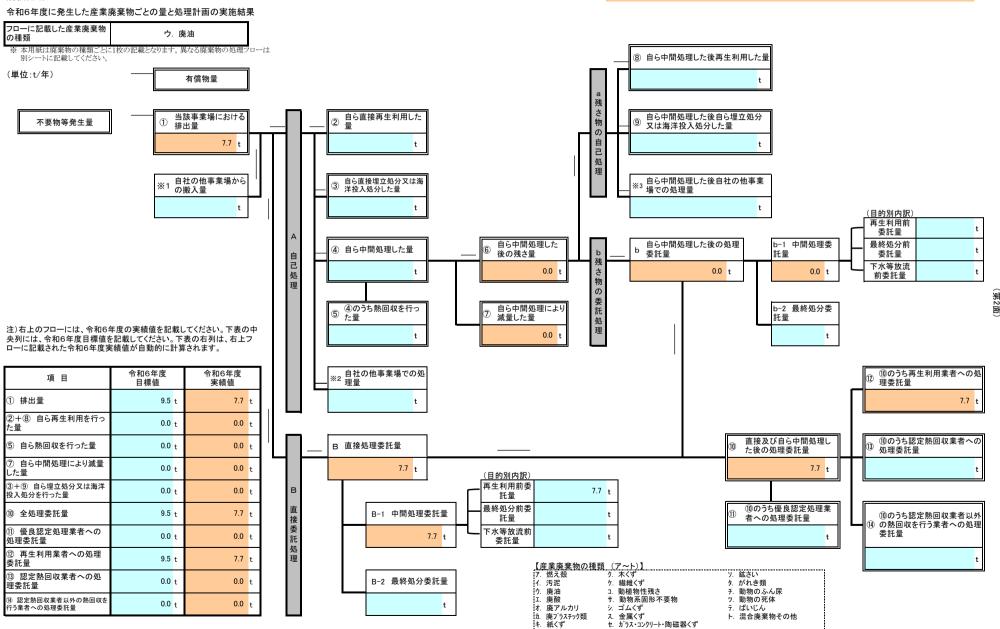
備考

- 1 当該年度(令和7年度)の6月30日までに提出してください。
- 2 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高 (前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるよう な前年度の実績を記入してください。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、前年度(令和6年度)提出の産業廃棄物処理計画に記載した目標量を 記入してください。
- 4 第2面(様式3-2)には、前年度(令和6年度)の産業廃棄物処理実績に関して①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に 掲げる量を記入してください。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄(1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄(4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10 ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する 者)への処理委託量
 - (12 ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を 受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14 ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面(様式3-2)の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入してください。
- 6 第1面の※欄には、何も記入しないでください。

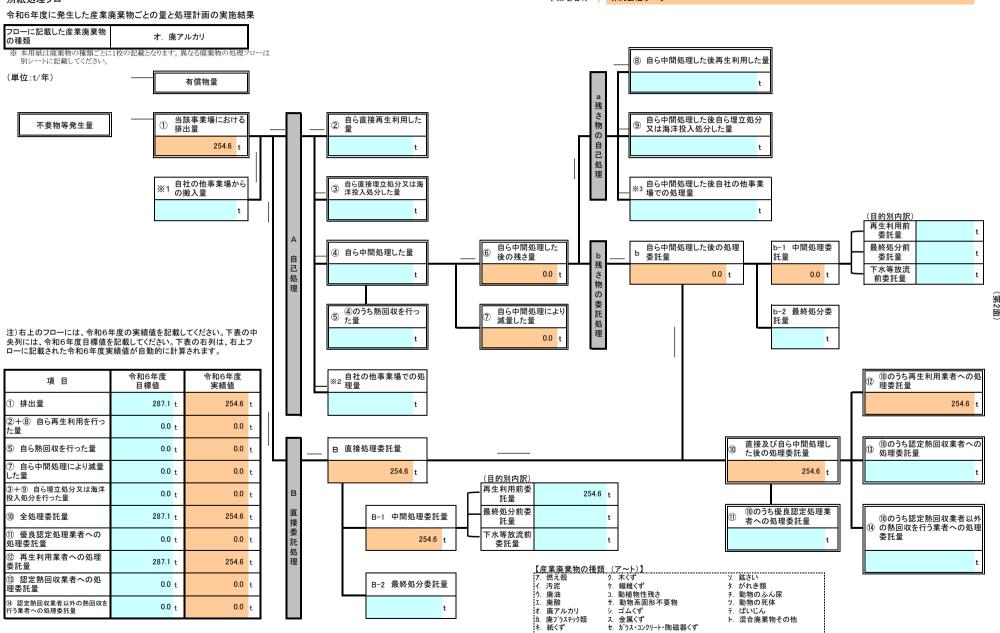
別紙処理フロー

事業場名称 : 株式会社オハラ 令和6年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果 フローに記載した産業廃棄物 イ. 汚泥 の種類 ※本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは ⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量 別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 当該事業場における 自ら直接再生利用した 自ら中間処理した後自ら埋立処分 不要物等発生量 9 又は海洋投入処分した量 排出量 572.6 自社の他事業場から 自ら直接埋立処分又は海 自ら中間処理した後自社の他事業 ③ 洋投入処分した量 の搬入量 場での処理量 (目的別内訳) 再生利用前 88.3 t 委託量 自ら中間処理した 自ら中間処理した後の処理 b-1 中間処理委 最終処分前 ④ 自ら中間処理した量 b 委託量 後の残さ量 託量 委託量 下水等放流 572.6 t 88.3 t 88.3 t 88.3 t 前委託量 ⑤ ④のうち熱回収を行っ た量 自ら中間処理により b-2 最終処分委 減量した量 託量 注)右上のフローには、令和6年度の実績値を記載してください。下表の中 484.3 t t 央列には、令和6年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フ ローに記載された令和6年度実績値が自動的に計算されます。 ※2 自社の他事業場での処 理量 令和6年度 令和6年度 ⑩のうち再生利用業者への処 項目 日標値 実結値 理委託量 ① 排出量 751.9 t 572.6 88.3 t ②+⑧ 自ら再生利用を行っ 0.0 t 0.0 **∱-**量 直接及び自ら中間処理し ⑩のうち認定熱回収業者への ③ 処理委託量 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.0 t 0.0 t B 直接処理委託量 た後の処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量 635.8 + 484.3 0.0 t 88.3 + .,†-量 (目的別内訳) 再生利用前委 ③+9 自ら埋立処分又は海洋 0.0 t 0.0 t 投入処分を行った量 託量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 116.1 t ① 全処理委託量 88.3 B-1 中間処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以外 託量 者への処理委託量 (4) の熱回収を行う業者への処理 ⑪ 優良認定処理業者への 下水等放流前 委託量 24.3 t 88.3 t 0.0 t 88.3 t 処理委託量 委託量 ① 再生利用業者への処理 116.1 t 88.3 委託量 【産業廃棄物の種類 (ア〜ト)】 7. 燃え殻 り. 木くず 鉱さい ③ 認定熱回収業者への処 B-2 最終処分委託量 0.0 t 0.0 t イ. 汚泥 ウ. 廃油 エ. 廃酸 ケ、繊維くず タ. がれき類 理委託量 動植物性残さ チ. 動物のふん尿 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を 動物系固形不要物 動物の死体 0.0 t 0.0 行う業者への処理委託量 オー廃アルカリ シ. ゴムくず **テ**. ばいじん カ. 廃プラスチック類 キ. 紙くず 金属くず ト. 混合廃棄物その他 セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

別紙処理フロー 事業場名称 : 株式会社オハラ



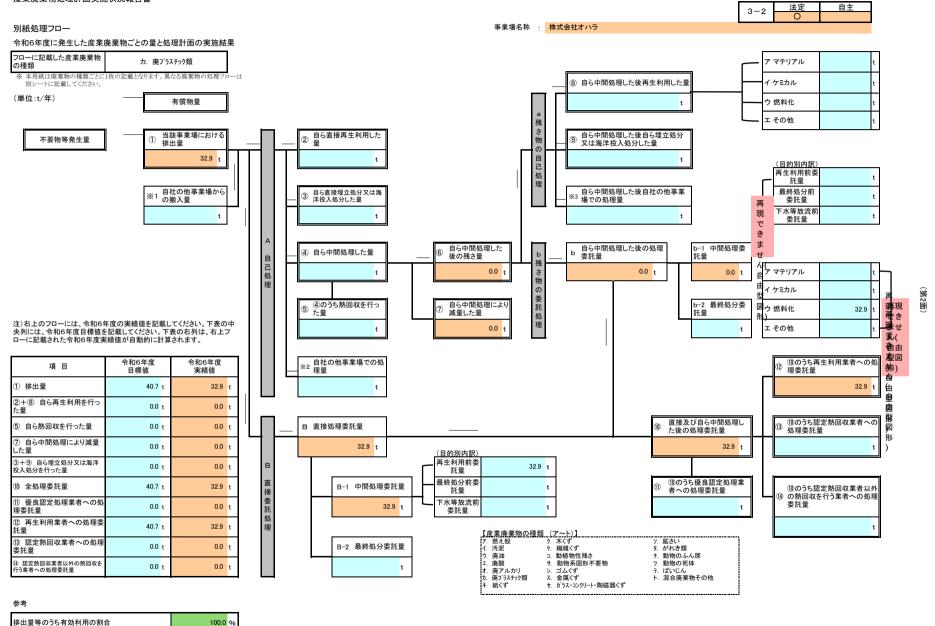
別紙処理フロー 事業場名称: <mark>株式会社オハラ</mark>



産業廃棄物処理計画実施状況報告書

(内訳)サーマルリカバリーの割合

100.0 9



事業場名称 : 株式会社オハラ 別紙処理フロー 令和6年度に発生した産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果 フローに記載した産業廃棄物 「木くず」には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です ク、木くず の種類 【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び 物品賃貸業に係るもの、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)。 ※本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは 【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用したこ ⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量 別シートに記載してください。 ん包用の木材を含む。) (単位:t/年) 有償物量 当該事業場における 自ら中間処理した後自ら埋立処分 自ら直接再生利用した 不要物等発生量 排出量 又は海洋投入処分した量 41.8 t 自社の他事業場から 自ら直接埋立処分又は海 自ら中間処理した後自社の他事業 ③ 洋投入処分した量 の搬入量 場での処理量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理した 自ら中間処理した後の処理 b-1 中間処理委 最終処分前 ④ 自ら中間処理した量 b 委託量 後の残さ量 託量 委託量 下水等放流 0.0 t 0.0 t 0.0 t 前委託量 ④のうち熱回収を行っ 自ら中間処理により b-2 最終処分委 ⑤ た量 減量した量 託量 注)右上のフローには、令和6年度の実績値を記載してください。下表の中 0.0 t 央列には、令和6年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フ ローに記載された令和6年度実績値が自動的に計算されます。 ※2 自社の他事業場での処 理量 令和6年度 令和6年度 ⑩のうち再生利用業者への処 項目 日標値 実結値 理委託量 ① 排出量 36.4 t 41.8 41.8 t ②+⑧ 自ら再生利用を行っ 0.0 t 0.0 **∱-**量 直接及び自ら中間処理し ⑩のうち認定熱回収業者への ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.0 t 0.0 t B 直接処理委託量 13 処理委託量 た後の処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量 0.0 t 0.0 41.8 t 41.8 t .,†-量 (目的別内訳) 再生利用前委 ③+9 自ら埋立処分又は海洋 41.8 t 0.0 t 0.0 t 投入処分を行った量 託量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 ① 全処理委託量 36.4 t 41.8 B-1 中間処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以外 託量 者への処理委託量 14) の熱回収を行う業者への処理 ⑪ 優良認定処理業者への 下水等放流前 委託量 0.0 t 0.0 41.8 t 処理委託量 委託量 ① 再生利用業者への処理 36.4 t 41.8 委託量 【産業廃棄物の種類 (ア〜ト)】 7. 燃え殻 り 木くず 鉱さい ③ 認定熱回収業者への処 B-2 最終処分委託量 0.0 t 0.0 t イ. 汚泥 ウ. 廃油 エ. 廃酸 ケ、繊維くず タ. がれき類 理委託量 動植物性残さ チ. 動物のふん尿 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を 動物系固形不要物 動物の死体 0.0 0.0 t 行う業者への処理委託量 オー廃アルカリ シ. ゴムくず **テ**. ばいじん

カ. 廃プラスチック類キ. 紙くず

紙くず

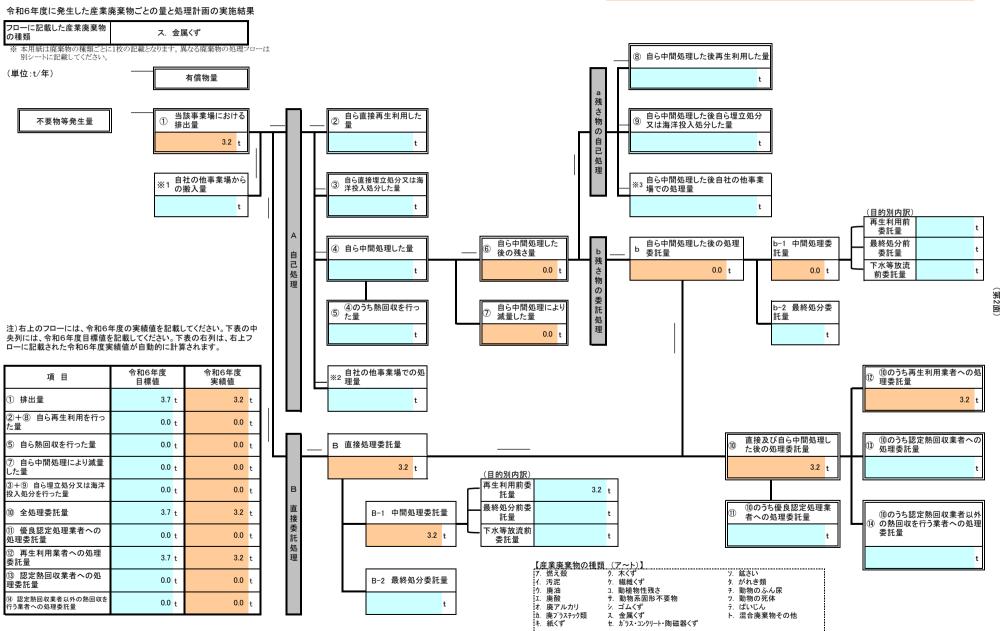
金属くず

セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

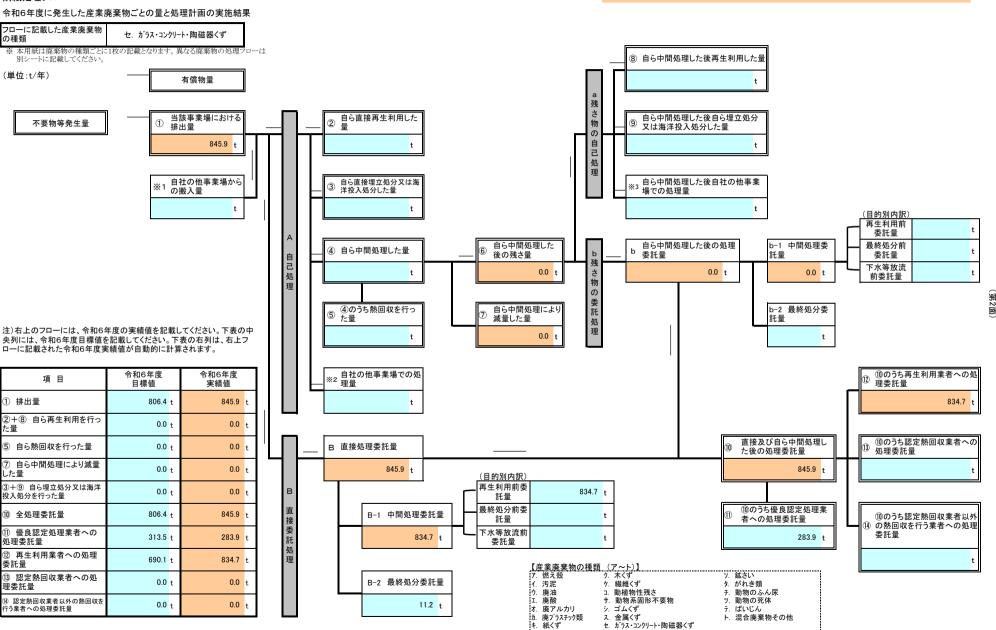
ト. 混合廃棄物その他

3-2 法定 自主 〇

別紙処理フロー 事業場名称: <mark>株式会社オハラ</mark>



別紙処理フロー 事業場名称: 株式会社オハラ



別紙	一括表											惠堂提名 称·	株式会社才	ハラ								<u> </u>	O	(単位:トン)
73'1 1954	10.33			ア	1	ウ	I	オ	カ	+	ク	ケ	¬	ť	シ	ス	セ	У	タ	チ	ッ	テ	١	(+ 12.12)
				燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃 プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性 残さ	動物系 固形不要物	ゴムくず	金属くず	がラス・コンクリー ト・陶磁器くず	鉱さい	がれき類	動物の	動物の 死体	ばいじん	混合廃棄物 その他	合計
	① 排	出量			751.9	9.5		287.1	40.7		36.4		,,,,,			3.7	806.4			13.101/1	7011			1,935.7
令	2+8	自	ら再生利用を行う量		0	0		0	0		0					0	0							0
和	5 自	·熱[回収を行う量		0	0		0	0		0					0	0							0
6	⑦ 自	中で	間処理により減量する量		635.8	0		0	0		0					0	0							635.8
年	3+9	自	ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量		0	0		0	0		0					0	0							0
度	10 全	処理	委託量		116.1	9.5		287.1	40.7		36.4					3.7	806.4							1,299.9
目	① 優」	良認:	定処理業者への処理委託量		24.3	0		0	0		0					0	313.5							337.8
標	12 再	生利	用業者への処理委託量		116.1	9.5		287.1	40.7		36.4					3.7	690.1							1,183.6
	13 認	定熱	回収業者への処理委託量		0	0		0	0		0					0	0							0
	14) 認	定熱	回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		0	0		0	0		0					0	0							0
	① 当	該事	業場における排出量		572.6	7.7		254.6	32.9		41.8					3.2	845.9							1,758.7
	※1自	社の	他事業場からの搬入量																					
	2	É	自ら直接再生利用した量																					
	3	É	ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量																					
	4	É	自ら中間処理した量		572.6																			572.6
	L	(5	③ ④のうち熱回収を行った量																					
	*	2 É	自社の他事業場での処理量																					
	6	É	自ら中間処理した後の残さ量		88.3																			88.3
	7	É	自ら中間処理により減量した量		484.3																			484.3
			自ら中間処理した後再生利用した量																					
	A 発		ア マテリアル																					1
	自参	5 71	イ ケミカル																					'n
	処しの)	ウ 燃料化																					
	理	<u>.</u>	エ その他																					
	知		自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した 量																					
令		*	3 自ら中間処理した後自社の他事業場での処理量																					
和	b	É	自ら中間処理した後の処理委託量		88.3																			88.3
6		b	-1 中間処理委託量		88.3																			88.3
年			再生利用前委託量		88.3																			88.3
度			最終処分前委託量																					
実			下水等放流前委託量																					
績		b	-2 最終処分委託量																					
	вВ	_	直接処理委託量			7.7		254.6	32.9		41.8					3.2	845.9							1,186.1
	直	В	3-1 中間処理委託量			7.7		254.6	32.9		41.8					3.2	834.7							1,174.9
	接 委		再生利用前委託量			7.7		254.6	32.9		41.8					3.2	834.7							1,174.9
	託		最終処分前委託量																					
	処 理	L	下水等放流前委託量																					
1 1			3-2 最終処分委託量														11.2							11.2
	10 直		び自ら中間処理した後の処理委託量		88.3	7.7		254.6	32.9		41.8					3.2	845.9							1,274.4
	1		0のうち優良認定処理業者への処理委託量		88.3												283.9							372.2
	(12)	_	動のうち再生利用業者への処理委託量		88.3	7.7		254.6	32.9		41.8					3.2	834.7							1,263.2
			? マテリアル																					
		-	ヘ ケミカル																					
		_	7 燃料化						32.9															32.9
		_	その他																					
	(13)		のうち認定熱回収業者への処理委託量																					
	14)	(U) 計	のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委 日量																					

4	法定	自主
4	0	

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 7年 5月 12日

相模原市長 殿

提出者

住 所 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30

氏 名 株式会社オハラ 代表取締役社長執行役員 齋藤 弘和 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 042-772-2101

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業場の名称	株式会社オハラ			自主管理事業登録番号							
事	業場の所在地	神奈川県相模原市中央図										
計	画 期 間		令和 7 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 (3月31日	3(1 年間)							
当言	亥事業場に関する	事項										
	① 事業の種類	E21-窯業·土石製品	製造業(具体的には)	ガラス・同	司製品製造業							
	② 事業の規模	製造業	製造品出荷額		14,449 百万円							
		建設業	エリア内元請完成工事高		百万円							
	※ 前年度実績を記入、医療機関は前年	医療機関	病床数		床							
	度末時点の病床数を 記入。	その他の業種	売上高		百万円							
		(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)										
	③ 従業員数				4	174						
	④ 特別管理産 業廃棄物の 一連の処理 の工程											
	※ 特別管理産業廃 棄物の種類ごとに記 入	別紙1										

十寸 カ	川官理医耒廃業物	の処理に係る官理体制に関する事項		
	(管理体制図)			
	別紙2			
特別	<u> </u> 別管理産業廃棄物	の排出の抑制に関する事項		
		【前年度(令和6年度)実績】		
		特別管理産業廃棄物の種類数	6 種類	* 種類ごとの前年度排出量
		① 排出量	702.59 t	は、別紙のとおり。
		(これまでに実施した取組)		
	① 現状			
		 1. 生産における歩留り(製品取得量)の向上		
		2. 節水対策による排水処理汚泥の削減		
		3. 業務改善による無駄の排除 (電子化の活用等)		
		【(令和7年度)目標】		
		特別管理産業廃棄物の種類数	5 種類	* 種類ごとの本年度排出目
		① 排出量	686.46 t	標量は、別紙のとおり。
		 (今後実施する予定の取組)		
		(つ及天)心がのけたの状態/		
	② 計画			
		1. 事業方針と統合させた活動実施		
		2. 環境意識向上の活動実施		
特品	 管理産業 <u></u> を棄物	 の分別に関する事項		
1317	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に	関する取組)	
	① 現状	1. ゴミ分別を明確化した資料・手順を基に教育実施 2. 定期的な分別状況の確認		
		3. より良い中間処分業者及び最終処分業者の選定		
		4. 行政、関係団体などからの情報収集		
		(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び	び分別に関する取組)	
	② 計画	 3R活動の推進		

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項								
			【前年度(令和6年度)実績】					
			②+⑧ 自ら再生利用を行った特別管 理産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら再 生利用量は、別紙のとおり。		
			(これまでに実施した取組)					
	1	現状						
		計画	【(令和7年度)目標】					
			②+⑧ 自ら再生利用を行う特別管理 産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら再 生利用量は、別紙のとおり。		
			(今後実施する予定の取組)					
	2							
自	ら行う	5特別管理産	・ 業廃棄物の中間処理に関する事項					
			【前年度(令和6年度)実績】					
	1	現状	⑤ 自ら熱回収を行った特別管理産業 廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱 回収を行った量は、別紙のと おり。		
			⑦ 自ら中間処理により減量した特別 管理産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、 別紙のとおり。		
			(これまでに実施した取組)					
			【(令和7年度)目標】					
)計画	⑤ 自ら熱回収を行う特別管理産業廃 棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら熱 回収を行う量は、別紙のとお り。		
			⑦ 自ら中間処理により減量する特別 管理産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、 別紙のとおり。		
			(今後実施する予定の取組)			ソン・マン この フット		
	(2)							
Ī	1		1					

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項							
		【前年度(令和6年度)実績】					
		③+⑨ 自ら埋立処分を行った特別管 理産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分を行った量は、別紙の とおり。		
		(これまでに実施した取組)					
	① 現状						
		【(令和7年度)目標】					
		③ + ⑨ 自ら埋立処分を行う特別管理 産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分を行う量は、別紙のとおり。		
		(今後実施する予定の取組)					
	② 計画						
特別	川管理産業廃 ^類						
		【前年度(令和6年度)実績】					
		⑪ 全処理委託量	702	2.59 t			
		① 優良認定処理業者への処理委 託量	46	1.23 t			
		② 再生利用業者への処理委託量	702	2.59 t	* 種類ごとの前年度処 理委託量は、別紙のとお り。		
	① 現状	③ 認定熱回収業者への処理委託 量	0	t			
	-	(4) 認定熱回収業者以外の熱回収 を行う業者への処理委託量	0	t			
		(これまでに実施した取組)					
l							

(第5面)

			(第5面)			
		[(2	令和7年度)目標】			
		10	全処理委託量	686.46	t	* 種類ごとの本年度処 理委託量は、別紙のとお り。
			① 優良認定処理業者への処理委 託量	452.06	t	
			② 再生利用業者への処理委託量	686.46	t	
	② 計画		③ 認定熱回収業者への処理委託 量		t	
			④ 認定熱回収業者以外の熱回収 を行う業者への処理委託量		t	
			後実施する予定の取組)			
			【前年度(令和6年度)実績】			
			特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ピフェニル廃棄物を除く。)			700.43 t
の 項	子情報処理組織 使用に関する事 /電子マニフェスト 使用に関する事		後実施する予定の取組等)			
*	事務処理欄					

備考

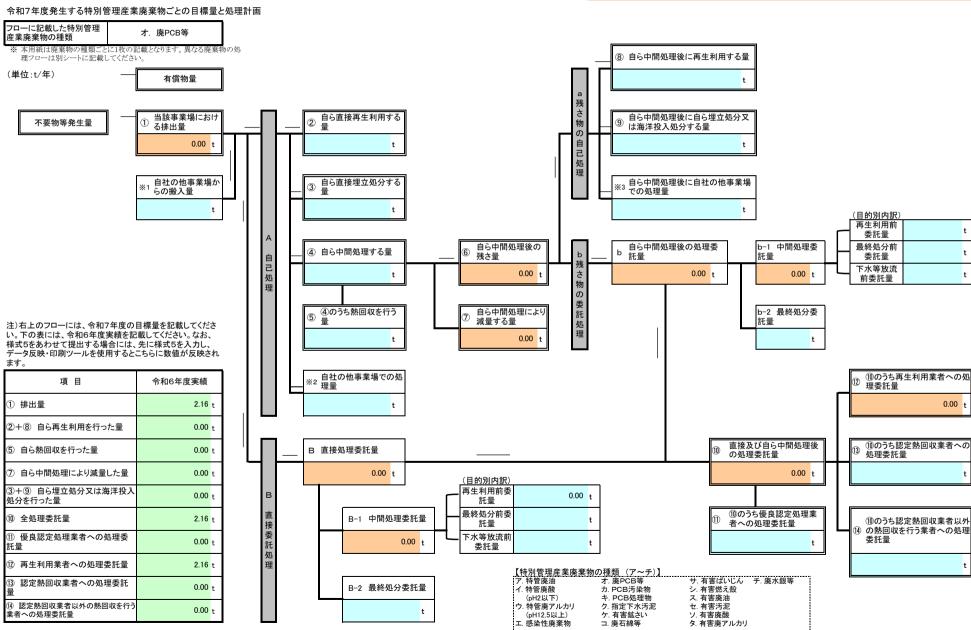
1 この様式は、前年度(令和6年度)の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

また、前年度(令和6年度)の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン未満の事業場にあっては、神奈川県・横浜市・川崎市・ 相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

- 2 当該年度(令和7年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を 記入してください。なお、中間処理を行うことにより、特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分する ときは、その量を含めて記入してください。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度(令和6年度)の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入してください。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入してください。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入 すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 9 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

事業場名称 : 株式会社オハラ 別紙処理フロー 令和7年度発生する特別管理産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した特別管理 ア. 特管廃油 産業廃棄物の種類 ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処 ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 理フローは別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 当該事業場におけ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又 自ら直接再生利用する 不要物等発生量 は海洋投入処分する量 る排出量 4.87 t 処理 自社の他事業場が 自ら中間処理後に自社の他事業場 自ら直接埋立処分する での処理量 らの搬入量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理後の 自ら中間処理後の処理委 b-1 中間処理委 最終処分前 4) 自ら中間処理する量 b 託量 残さ量 託量 委託量 下水等放流 0.00 t 0.00 t 0.00 t t 前委託量 物の 委託処理 ④のうち熱回収を行う 自ら中間処理により b-2 最終処分委 (5) 量 減量する量 託量 注)右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してくださ い。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、 0.00 t t 様式5をあわせて提出する場合には、先に様式5を入力し、 データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映され ます。 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 項目 令和6年度実績 ※2 正: 理量 理委託量 ① 排出量 4.97 + 4.87 + ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0.00 t 直接及び自ら中間処理後 ⑩のうち認定熱回収業者への B 直接処理委託量 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.00 t の処理委託量 処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量した量 0.00 t 4.87 t 4.87 t (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海洋投入 再生利用前委 0.00 t 4.87 t 処分を行った量 託量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 ① 全処理委託量 B-1 中間処理委託量 4.97 t ⑩のうち認定熱回収業者以外 者への処理委託量 託量 ① の熱回収を行う業者への処理 ① 優良認定処理業者への処理委 下水等放流前 委託量 0.00 t 4.87 t 委託量 ② 再生利用業者への処理委託量 4.97 t 【特別管理産業廃棄物の種類 (ア〜チ)】 サ. 有害ばいじん チ. 廃水銀等 ア. 特管廃油 才. 廃PCB等 認定熱回収業者への処理委託 0.00 +B-2 最終処分委託量 イ. 特管廃酸 力. PCB污染物 シ. 有害燃え殻 キ、PCB処理物 スー有害廃油 (pH2以下) (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を行う ウ. 特管廃アルカリ ク. 指定下水汚泥 セ 有害汚泥 0.00 t t 業者への処理委託量 (pH12.5以上) ケ. 有害鉱さい ソ. 有害廃酸 工. 感染性廃棄物 コ. 廃石綿等 タ. 有害廃アルカリ

別紙処理フロー 事業場名称 : <mark>株式会社オハラ</mark>



0.00 t

業者への処理委託量

法定 自主 4-2 0

事業場名称 : 株式会社オハラ 別紙処理フロー 令和7年度発生する特別管理産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した特別管理 サ. 有害ばいじん 産業廃棄物の種類 ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処 ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 理フローは別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 当該事業場におけ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又 自ら直接再生利用する 不要物等発生量 は海洋投入処分する量 る排出量 4.03 t 処理 自社の他事業場が 自ら中間処理後に自社の他事業場 自ら直接埋立処分する での処理量 らの搬入量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理後の 自ら中間処理後の処理委 b-1 中間処理委 最終処分前 4) 自ら中間処理する量 b 託量 残さ量 託量 委託量 下水等放流 0.00 t 0.00 t さ 0.00 t t 前委託量 物の 委託処理 ④のうち熱回収を行う 自ら中間処理により b-2 最終処分委 **(5**) 量 減量する量 託量 注)右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してくださ い。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、 0.00 t 様式5をあわせて提出する場合には、先に様式5を入力し、 データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映され ます。 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 項目 令和6年度実績 ※2 型量 理委託量 ① 排出量 4.12 + 4.03 ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0.00 t 直接及び自ら中間処理後 ⑩のうち認定熱回収業者への B 直接処理委託量 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.00 t の処理委託量 処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量した量 0.00 t 4.03 t 4.03 t (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海洋投入 再生利用前委 0.00 t 4.03 t 処分を行った量 託量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 ① 全処理委託量 B-1 中間処理委託量 4.12 t ⑩のうち認定熱回収業者以外 者への処理委託量 託量 ① の熱回収を行う業者への処理 ① 優良認定処理業者への処理委 下水等放流前 委託量 0.00 t 4.03 t 委託量 ② 再生利用業者への処理委託量 4.12 t 【特別管理産業廃棄物の種類 (ア〜チ)】 サ. 有害ばいじん チ. 廃水銀等 ア. 特管廃油 才. 廃PCB等 認定熱回収業者への処理委託 0.00 +B-2 最終処分委託量 イ. 特管廃酸 力. PCB污染物 シ. 有害燃え殻 キ、PCB処理物 (pH2以下) ス. 有害廃油 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を行う ウ. 特管廃アルカリ ク. 指定下水汚泥 セ 有害汚泥

t

(pH12.5以上)

工. 感染性廃棄物

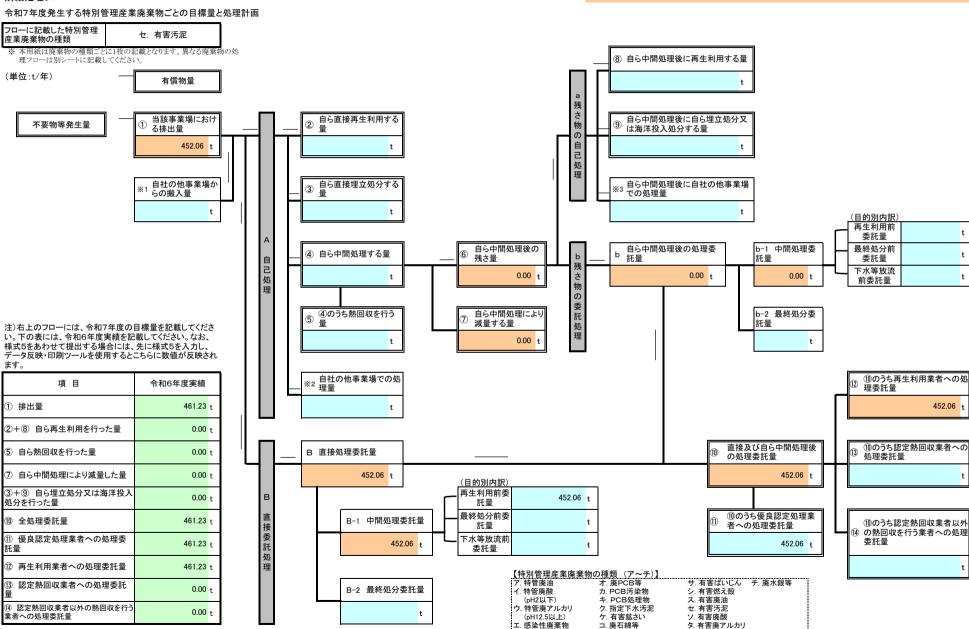
ケ. 有害鉱さい

コ. 廃石綿等

ソ. 有害廃酸

タ. 有害廃アルカリ

別紙処理フロー 事業場名称 : <mark>株式会社オハラ</mark>



別紙処理フロー 事業場名称 : <mark>株式会社オハラ</mark>

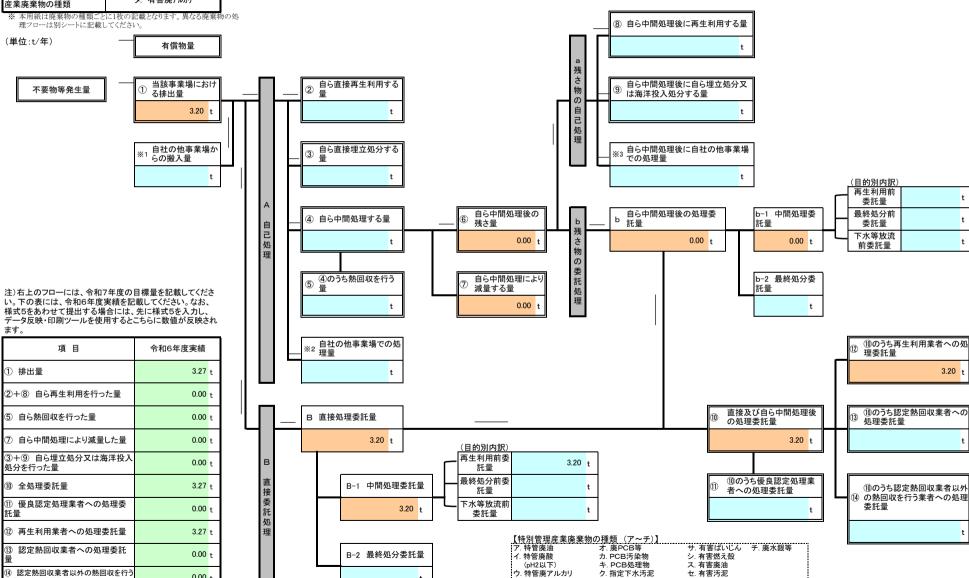
令和7年度発生する特別管理産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した特別管理 ソ. 有害廃酸 産業廃棄物の種類 ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処 ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 理フローは別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 当該事業場におけ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又 自ら直接再生利用する 不要物等発生量 は海洋投入処分する量 る排出量 222.30 t 処理 自社の他事業場が 自ら中間処理後に自社の他事業場 自ら直接埋立処分する での処理量 らの搬入量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理後の 自ら中間処理後の処理委 b-1 中間処理委 最終処分前 4) 自ら中間処理する量 b 託量 残さ量 託量 委託量 下水等放流 0.00 t 0.00 t 0.00 t t 前委託量 物の 委託処理 ④のうち熱回収を行う 自ら中間処理により b-2 最終処分委 (5) 量 減量する量 託量 注)右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してくださ い。下の表には、令和6年度実績を記載してください。なお、 0.00 t t 様式5をあわせて提出する場合には、先に様式5を入力し、 データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映され ます。 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 項目 令和6年度実績 ※2 型量 理委託量 ① 排出量 226.84 + 222.30 ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0.00 t 直接及び自ら中間処理後 ⑩のうち認定熱回収業者への B 直接処理委託量 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.00 t の処理委託量 処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量した量 0.00 t 222.30 t 222.30 t (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海洋投入 再生利用前委 0.00 t 222.30 t 処分を行った量 託量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 B-1 中間処理委託量 ⑩ 全処理委託量 226.84 t ⑩のうち認定熱回収業者以外 者への処理委託量 託量 ① の熱回収を行う業者への処理 ① 優良認定処理業者への処理委 下水等放流前 委託量 0.00 t 222.30 t 委託量 ② 再生利用業者への処理委託量 226.84 t 【特別管理産業廃棄物の種類 (ア〜チ)】 サ. 有害ばいじん チ. 廃水銀等 ア. 特管廃油 才. 廃PCB等 認定熱回収業者への処理委託 0.00 +B-2 最終処分委託量 イ. 特管廃酸 力. PCB污染物 シ. 有害燃え殻 キ、PCB処理物 (pH2以下) ス. 有害廃油 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を行う ウ. 特管廃アルカリ ク. 指定下水汚泥 セ 有害汚泥 0.00 t t 業者への処理委託量 (pH12.5以上) ケ. 有害鉱さい ソ. 有害廃酸 工. 感染性廃棄物 コ. 廃石綿等 タ. 有害廃アルカリ

0.00 t

業者への処理委託量

法定 自主 4-2 0

事業場名称 : 株式会社オハラ 別紙処理フロー 令和7年度発生する特別管理産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した特別管理 タ、有害廃アルかり 産業廃棄物の種類 ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処



(pH12.5以上)

工. 感染性廃棄物

ケ. 有害鉱さい

コ. 廃石綿等

ソ. 有害廃酸

タ. 有害廃アルカリ

t

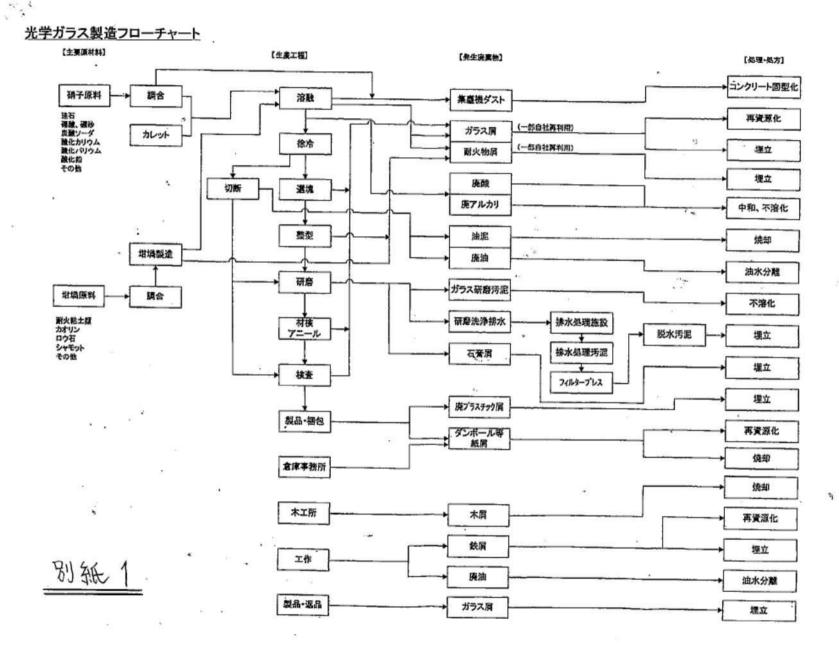
別紙一括表

4-1 法定 自主

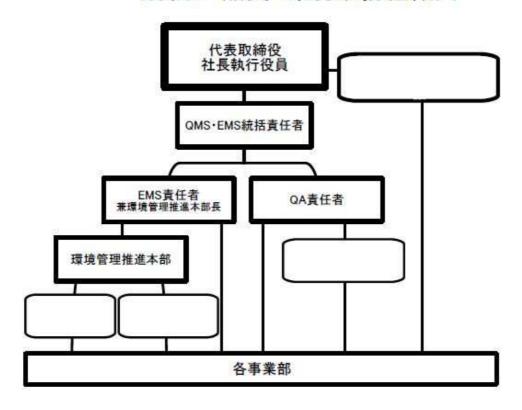
(単位:トン)

事業場名称:株式会社オハラ

אבווי נינל	一括衣	•	ア	1	Ċ	I	オ	b	+	ク	サ末物口が.	休式芸社オハ	. ,	シ	ス	セ	y	タ	Ŧ	(単位:トン)
			特管廃油	特管廃酸 (pH2以下)	特管廃アルかり (pH12.5以上)	感染性 廃棄物	廃PCB等	PCB汚染物		指定 下水汚泥	有害鉱さい	廃石綿等			有害廃油	有害汚泥	有害廃酸	有害 廃アルカリ	廃水銀等	合計
	① 排	出量	4.97				2.16						4.12			461.23	226.84	3.27		702.59
令	2+8	自ら再生利用を行った量	0										0			0	0	0		0
和	⑤ 自	ら熱回収を行った量	0										0			0	0	0		0
6	⑦ 自	ら中間処理により減量した量	0										0			0	0	0		0
年	3+9	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0										0			0	0	0		0
度	① 全	処理委託量	4.97				2.16						4.12			461.23	226.84	3.27		702.59
実	⑪ 優.	良認定処理業者への処理委託量	0										0			461.23	0	0		461.23
0	12) 再	② 再生利用業者への処理委託量					2.16						4.12			461.23	226.84	3.27		702.59
	③ 認:	定熱回収業者への処理委託量	0										0			0	0	0		0
	14) 認	定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0										0			0	0	0		0
	① 当	該事業場における排出量	4.87										4.03			452.06	222.30	3.20		686.46
	※1 自	社の他事業場からの搬入量																		
	2	自ら直接再生利用する量																		
	3	自ら直接埋立処分する量																		
	4	自ら中間処理する量																		
		⑤ ④のうち熱回収を行う量																		
	*	2 自社の他事業場での処理量																		
	6	自ら中間処理後の残さ量																		
	_Δ ⑦	自ら中間処理により減量する量																		
	ê e	a ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量																		
	己処	残ささ																		
令和 7 年 度		物 ※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量																		
	b	自ら中間処理後の処理委託量																		
		b-1 中間処理委託量																		
		再生利用前委託量																		
		最終処分前委託量																		
目		下水等放流前委託量																		
標		b-2 最終処分委託量																		
	В	直接処理委託量	4.87										4.03			452.06	222.30	3.20		686.46
1 1 2	B 直	B-1 中間処理委託量	4.87										4.03			452.06	222.30	3.20		686.46
	接	再生利用前委託量	4.87										4.03			452.06	222.30	3.20		686.46
	委 託	最終処分前委託量																		
	処理	下水等放流前委託量																		
	4	B-2 最終処分委託量																		
	10 直	接及び自ら中間処理後の処理委託量	4.87										4.03			452.06	222.30	3.20		686.46
	1	⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量														452.06				452.06
	(12)	⑩のうち再生利用業者への処理委託量	4.87										4.03			452.06	222.30	3.20		686.46
	(13)	⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量																		
	14)	⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委 託量																		
	0	社重																		



別紙2 品質•環境業務組織図



5 <u>法定 自主</u>

様式第二号の十四(第八条の十七の三関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和 7年 5月 12日

042-772-2101

相模原市長 殿

提出者

住 所 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30

株式会社オハラ 氏名 供表取締役社 見む

名 代表取締役社長執行役員 齋藤 弘和

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

TEL(連絡先):

電話番号 042-772-2101

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第11項の規定に基づき、令和6年度の特別管理産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

 事業場の名称
 株式会社オハラ
 自主管理事業登録番号

 (5035)

事 業 場 の 所 在 地 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30

当該事業場に関する事項

① 事業の種類	E21一窯業·土石製品製造業	(具体的には)	ガラス・同製品製造業	
② 事業の規模	製造業	製造品出荷額	14,449	百万円/年
	建設業	エリア内元請完成工事高		百万円/年
※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の	医療機関	病床数		床
病味数を記入。	その他の業種	売上高		百万円/年

(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)

③ 従業員数 474

特別管理産業廃棄物処理計画における計画期間

令和6年4月1日~令和7年3月31日(1年間)

特別管理産業廃棄物処理計画における目標値

項目	目標値	項目	目標値
排出量	689.18 t	全処理委託量	689.18 t
自ら再生利用を行う特別管理産業 廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託 量	431.57 t
自ら熱回収を行う特別管理産業廃 棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	689.18 t
自ら中間処理により減量する特別管 理産業廃棄物の量	0 t	熱回収認定業者への処理委託量	0 t
自ら埋立処分を行う特別管理産業 廃棄物の量	0 t	熱回収認定業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量	0 t

電子情報処理組織の使用に関する事項

(電子マニフェストの使用に関する事項)

特別管理産業廃棄物排出量	前々年度(令和5年度)		t	
(ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	前 年 度(令和6年度)	700.43	t	

(電子情報処理組織の使用に関して実施した取組)

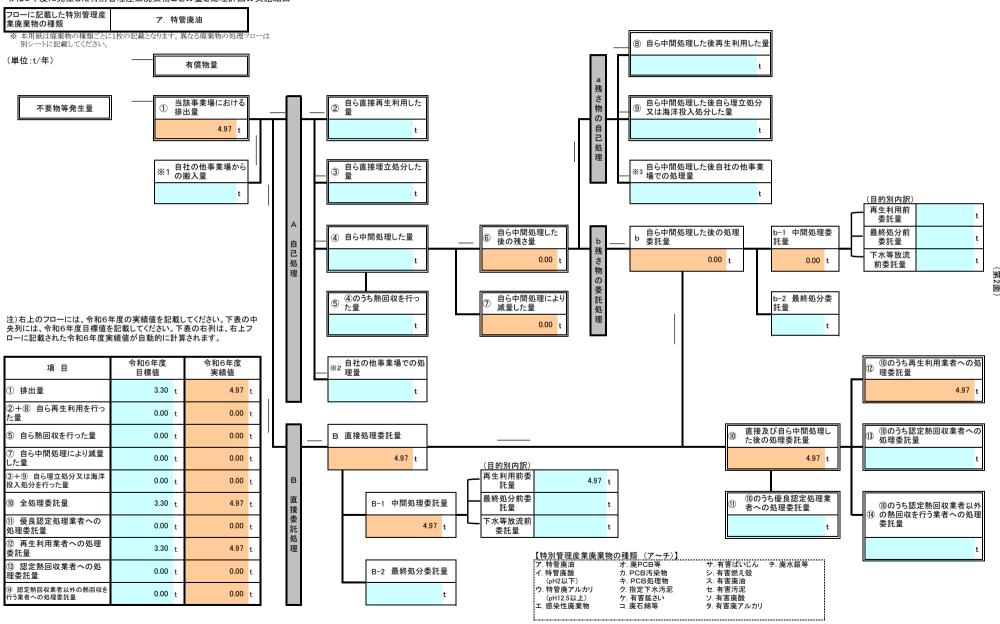
事務処理欄

備考

- 1 当該年度(令和7年度)の6月30日までに提出してください。
- 2 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高 (前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような 前年度の実績を記入してください。
- 3 「特別管理産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、前年度(令和6年度)提出の特別管理産業廃棄物処理計画に記載した 目標量を記入してください。
- 4 第2面(様式5-2)には、前年度(令和6年度)の特別管理産業廃棄物処理実績に関して①~⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入してください。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた特別管理産業廃棄物の量
 - (2) ②欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄(1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした特別管理産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄(4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) (7)欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄(6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄(6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ③欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面(様式5-2)の左下の表には、項目ごとに、特別管理産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入してください。
- 6 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄は、前々年度(令和5年度)及び前年度(令和6年度)における特別管理産業廃棄物の排出量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)並びに電子情報処理組織使用義務者にあっては前年度(令和6年度)に実施した電子情報処理組織に関する取組(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律成功規則第8条の31の4に該当したときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 7 第1面の※欄には、何も記入しないでください。

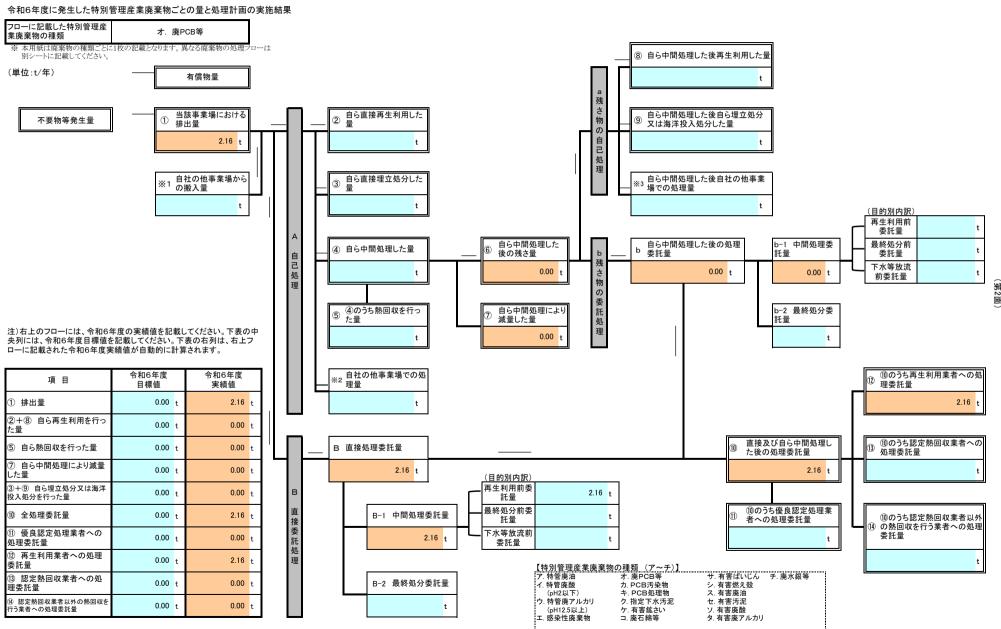
別紙処理フロー

令和6年度に発生した特別管理産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果



事業場名称 : 株式会社オハラ

別紙処理フロー 事業場名称 : <mark>株式会社オハラ</mark>



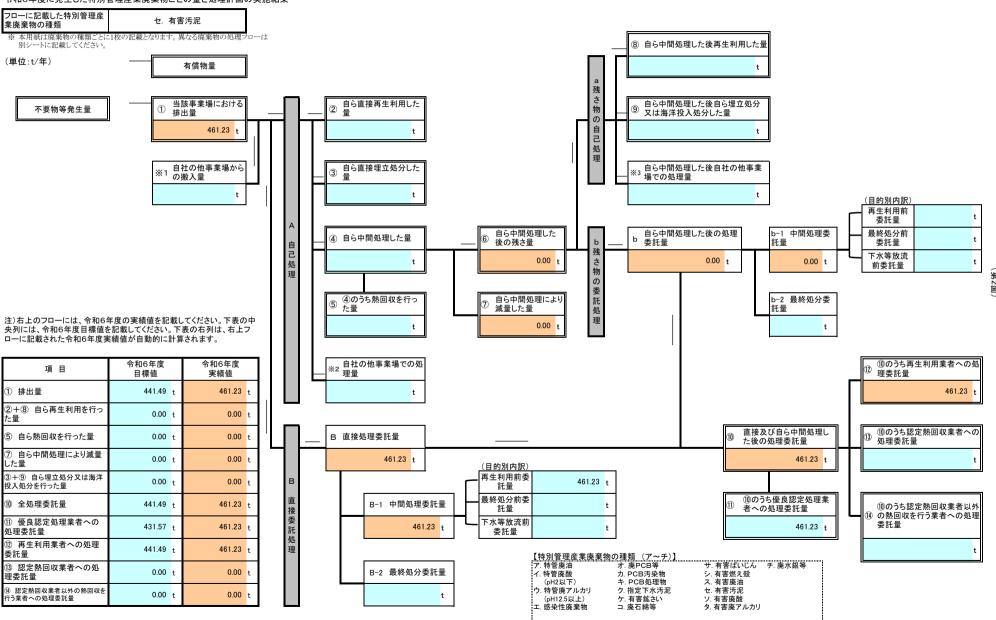
法定 自主 5-2

別紙処理フロー

事業場名称 : 株式会社オハラ 令和6年度に発生した特別管理産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果 フローに記載した特別管理産 サ. 有害ばいじん 業廃棄物の種類 ※本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは ⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量 別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 当該事業場における 自ら直接再生利用した 自ら中間処理した後自ら埋立処分 不要物等発生量 9 又は海洋投入処分した量 排出量 4.12 t 自社の他事業場から 自ら直接埋立処分した 自ら中間処理した後自社の他事業 の搬入量 場での処理量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理した 自ら中間処理した後の処理 b-1 中間処理委 最終処分前 ④ 自ら中間処理した量 b 委託量 後の残さ量 託量 委託量 自己処理 下水等放流 0.00 0.00 t 0.00 t 前委託量 自ら中間処理により b-2 最終処分委 ④のうち熱回収を行っ た量 減量した量 託量 注)右上のフローには、令和6年度の実績値を記載してください。下表の中 0.00 央列には、令和6年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フ ローに記載された令和6年度実績値が自動的に計算されます。 令和6年度 令和6年度 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 項目 ¹² 理委託量 目標値 実績値 理量 ① 排出量 7.35 + 4.12 + 4.12 ②+⑧ 自ら再生利用を行っ 0.00 t 0.00 t 直接及び自ら中間処理し ⑩のうち認定熱回収業者への ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.00 t B 直接処理委託量 0.00 t た後の処理委託量 処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量 0.00 t 0.00 4.12 t 4.12 t た量 (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海洋 再生利用前委 0.00 t 4.12 t 0.00 投入処分を行った量 託量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 ① 全処理委託量 7.35 + 4.12 + B-1 中間処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以外 託量 者への処理委託量 4 の熱回収を行う業者への処理 ① 優良認定処理業者への 下水等放流前 0.00 t 委託量 0.00 4.12 t 処理委託量 委託量 ① 再生利用業者への処理 7.35 + 4.12 + 委託量 【特別管理産業廃棄物の種類 (ア〜チ)】 ア、特管廃油 オ、廃PCB等 サ. 有害ばいじん チ. 廃水銀等 オ 廃PCB等 ③ 認定熱回収業者への処 B-2 最終処分委託量 0.00 t 0.00 シ. 有害燃え殻ス. 有害廃油 イ. 特管廃酸 力. PCB汚染物 理委託量 キ PCB処理物 (pH2以下) (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を ウ. 特管廃アルカリ ク. 指定下水汚泥 セ. 有害汚泥 0.00 +0.00 行う業者への処理委託量 (pH12.5以上) ケ. 有害鉱さい ソ. 有害廃酸 工. 感染性廃棄物 コ. 廃石綿等 タ. 有害廃アルカリ

別紙処理フロー

令和6年度に発生した特別管理産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果



事業場名称 : 株式会社オハラ

た量

③+9 自ら埋立処分又は海洋

① 優良認定処理業者への

① 再生利用業者への処理

③ 認定熱回収業者への処

(4) 認定熱回収業者以外の熱回収を

行う業者への処理委託量

投入処分を行った量

① 全処理委託量

処理委託量

委託量

理委託量

0.00 t

237.04 +

0.00

237.04 +

0.00 t

0.00 +

0.00

226.84

0.00

226.84

0.00

0.00

⑩のうち認定熱回収業者以外

4 の熱回収を行う業者への処理

委託量

別紙処理フロー

令和6年度に発生した特別管理産業廃棄物ごとの量と処理計画の実施結果 フローに記載した特別管理産 ソ. 有害廃酸 業廃棄物の種類 (本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは ⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量 別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 当該事業場における 自ら直接再生利用した 自ら中間処理した後自ら埋立処分 不要物等発生量 9 又は海洋投入処分した量 排出量 226.84 自社の他事業場から 自ら直接埋立処分した 自ら中間処理した後自社の他事業 の搬入量 場での処理量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理した 自ら中間処理した後の処理 b-1 中間処理委 最終処分前 ④ 自ら中間処理した量 b 委託量 後の残さ量 託量 委託量 自己処理 下水等放流 0.00 0.00 t 0.00 t 前委託量 自ら中間処理により b-2 最終処分委 ④のうち熱回収を行っ た量 減量した量 託量 注)右上のフローには、令和6年度の実績値を記載してください。下表の中 0.00 央列には、令和6年度目標値を記載してください。下表の右列は、右上フ ローに記載された令和6年度実績値が自動的に計算されます。 令和6年度 令和6年度 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 項目 ¹² 理委託量 目標値 実績値 理量 ① 排出量 237.04 226.84 226.84 ②+⑧ 自ら再生利用を行っ 0.00 t 0.00 t 直接及び自ら中間処理し ⑩のうち認定熱回収業者への ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.00 t B 直接処理委託量 0.00 た後の処理委託量 処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量 0.00 t 0.00 226.84 t 226.84 t

(目的別内訳)

再生利用前委

託量 最終処分前委

託量

下水等放流前

委託量

B-1 中間処理委託量

B-2 最終処分委託量

226.84 t

226.84 t

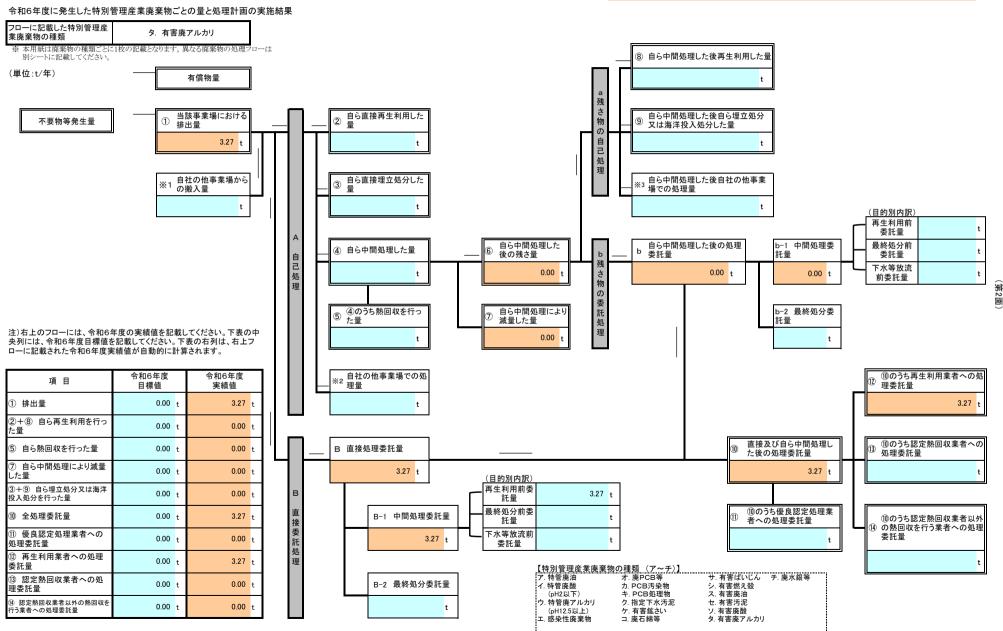
事業場名称 : 株式会社オハラ

【特別管理産業廃棄物の種類 (ア〜チ)】 ア、特管廃油 オ、廃PCB等 サ. 有害ばいじん チ. 廃水銀等 オ 廃PCB等 イ. 特管廃酸 力. PCB汚染物 シ. 有害燃え殻 ス. 有害廃油 キ PCB処理物 (pH2以下) ウ. 特管廃アルカリ ク. 指定下水汚泥 セ. 有害汚泥 (pH12.5以上) ケ. 有害鉱さい ソ. 有害廃酸 工. 感染性廃棄物 コ. 廃石綿等 タ. 有害廃アルカリ

⑩のうち優良認定処理業

者への処理委託量

別紙処理フロー 事業場名称: <mark>株式会社オハラ</mark>



法定 自主 5-1

事業場名称:株式会社オハラ

別紙一括表 (単位:トン) サ ゥ オ + ク П セ タ 特管廃酸 感染性 特管廃アルカリ 指定 有害 特管廃油 廃PCB等 PCB污染物 PCB処理物 有害鉱さい 廃石綿等 有害ばいじん 有害燃え殻 有害廃油 有害汚泥 有害廃酸 廃水銀等 合計 下水汚泥 廃アルカリ (nH2以下) (nH125DJE) **麔棄物** ① 排出量 3.30 441.49 237.04 689.18 7.35 ②+⑧ 自ら再生利用を行う量 0 0 0 和 ⑤ 自ら熱回収を行う量 0 0 0 0 0 0 0 6 ⑦ 自ら中間処理により減量する量 0 0 0 年 ③+9 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量 度 ⑩ 全処理委託量 3.30 0 7.35 441.49 237.04 0 689.18 目 ① 優良認定処理業者への処理委託量 431.57 431.57 標 ① 再生利用業者への処理委託量 3.30 0 7.35 441.49 237.04 689.18 ③ 認定熱回収業者への処理委託量 0 0 0 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 n ① 当該事業場における排出量 3.27 4.97 2.16 4.12 461.23 226.84 702.59 ※1 自社の他事業場からの搬入量 ② 自ら直接再生利用した量 ③ 自ら直接埋立処分した量 ④ 自ら中間処理した量 ⑤ ④のうち熱回収を行った量 ※2 自社の他事業場での処理量 自ら中間処理した後の残さ量 ⑦ 自ら中間処理により減量した量 自 a 8 自ら中間処理した後再生利用した量 2. 技 3 自ら中間処理した後自ら埋立処分文は満洋投入処分した 5 量 ^{誰の} ※3 自ら中間処理した後自社の他事業場での処理量 自ら中間処理した後の処理委託量 b-1 中間処理委託量 再生利用前委託量 最終処分前委託量 下水等放流前委託量 b-2 最終処分委託量 直接処理委託量 4.97 2.16 461.23 226.84 3.27 4.12 702.59 B-1 中間処理委託量 4.97 2.16 4.12 461.23 226.84 3.27 702.59 再生利用前委託量 4.97 2.16 4.12 461.23 226.84 3.27 702.59 最終処分前委託量 託 処 下水等放流前委託量 理 B-2 最終処分委託量 ① 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量 4.97 2.16 4.12 461.23 226.84 3.27 702.59 ① ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 461.23 461.23 ① ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 4.97 2.16 4.12 461.23 226.84 3.27 702.59 ③ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委